

左衛門尉中原範政卒去年五十七云々凡天亡者不可勝計京中路頭河原之邊近日積骸骨可謂大疫

〔朝野群載雜文二十一〕天下不靜間事

禮記月令曰孟春之月行秋令則民大疫又曰季春之月行夏令則民多疾疫

今案政令違節民有疾疫歟○中略

漢書曰柏者鬼之廷也師古曰鬼神好幽闇故松柏爲廷府也

正曆五年六月廿七日被安置疫神於船岡上長保三年五月九日被安置疫神於紫野京師衆庶行

御靈會伴年々天下不靜仍有此儀無量之條已叶本文鬼神好幽闇神有所歸者不爲厲之故也風

聞紫野今宮久歷年序漸及破損加之下民之愚誤伐樹木歟早加修復必有感應矣

右民者國之寶君之本也治國之道不侮匹夫卽近日以降天下不靜物故之者往々在焉因修明文可

被計行所謂一人有慶兆民賴之仍大略注申如件

天承二年閏四月八日

散位中原師元

〔百練抄高八〕承安二年五月十二日京中諸人修諷誦於六角堂因幡堂爲免疫疾云々

〔帝王編年記安德二十二〕養和元年今年天下飢饉道路餓死者充滿以來未有如此也

壽永元年飢饉同去年旱魃疫癘越年死人在墻壁

〔方丈記〕又養和のころかどよひさしくなりてたしかにもおぼえず二年があひだ世の中飢渴してあさましきこと侍りき○中略明くる年はたちなほるべきかと思ふ程にあまつさへえやみうちそひてまさるやうに跡方なし世の人皆うゑ死にければ日を経つ窮りゆくさま少水の魚のたとへに叶へり終にはかさうちき足ひきつみ身よろしき姿したるものひたすら家ごとに乞ひありかくわびしれたるものどもありくかと思れば則倒れ伏しぬついひぢのつら路の頭にうゑ死ぬる類は數も知らず取り捨るわざもなければくさき香世界にみちくして變り